7講座

小説の読解

8/22 (木)

P.14 ~ P.15

基本

解答

(1) 少年の背後
(2) むっつりしたまま
(3) ウ
(4) もう少年と
(5) ワラの匂い。糞の匂い。動物のオシッコの匂い。ヒマワリの種や鳥の餌の匂い。
(6) エ
(7) ア

○解説○

(1) この文章中で時間帯がわかる言葉は、「空は夕焼け色」だけである。

(2) 自分もデパートの客なのに、なぜとがめるのかと不機嫌になっている少年の態度を表す言葉を探す。「むっつり」は、黙り込んで面白くなさそうにしている様子を表す。

(3) ——線①より少しあとの「二週間前に……すっかりあのリスが気に入ってしまったのだが……お金では足りなかった」ということから状況をとらえ、少年が何を心配していたのかを考える。

(4) 少年が、欲しかったリスを「アノリス」という名前で呼んでいることをとらえ、なぜ「アノリス」になったかを説明した文を探す。少年が店員に言った「あのリスをください」の「あのリス」は、指さした先にいるリスを指し示した言葉で、固有名詞ではない。

(5) 「匂い」という言葉を繰り返した直後に「少年の顔がなごんでくる」とあることをとらえる。

(6) 二週間アイスを我慢してためたお金でリスを手に入れた幸せと、二週間ぶりのアイスを食べる幸せを、そのリスとともに味わっていることを読み取る。

(7) 最後の「空は夕焼け色にかがやいていた」が、少年の幸福感を象徴している。

9講座

短歌・俳句の鑑賞

P.19

標準

解答

3

(1) 夏
(2) 例 何も象徴していないし何も暗示していない
(3) 人間の心
(4) 例 物の本質を感じたとおりに表現しているところ。

▲表現力 あなたの言葉で答えよう

例 一枚の大きな桐の葉が、秋の日差しを受けながら、ゆっくりと静かに落ちていく様子がとらえられている。

○解説○

3

(1) Aは「てんたう虫」、Bは「滝」が夏の季語となっている。

(2) 直後の段落に「滝の普遍的な現実を表現しただけ」とあることに着目する。

(4) A・Bの句は、「目で見て事物をありのままに作る」ということの例としてあげられていることから考える。

(ア) Ⅰ 3 Ⅱ 4

(イ) (携帯機器を使う場合は、) 一日の使用時間を決めて節度のある使い方をするとともに、携帯機器との関わり方全般について家庭内で話し合い、ルールをきちんと決めることが (大切である。)

夏 中三 国語 古文 (3)

(1) 何者ぞ～入るは
(2) (宇治の) 関白殿 (殿下)・鼎殿
(3) 装束
(4) ゆえ
(5) ア

現代語訳 宇治の関白殿が、あるとき、鼎殿に行って、火をたくところを見ていた。鼎殿の役人が(これを)見て、「何者だ、勝手に御所の鼎殿に入るのは。」と言って(関白殿を追い出したのだが)、追い出された後、(関白殿は)さっきの粗末な衣服を脱ぎかえて、(関白としての)威勢があるように見える装束を急いで身につけ、(鼎殿に)おでましになった。そのときに、さっきの鼎殿の役人が、遠くから(関白殿を)見て、恐れ入って逃げてしまった。そのとき、(関白)殿下は、装束を竿にお掛けになって、拝みなさった。人が、これを(見て、その理由を)尋ねた。(関白殿が)答えて言うことには、「わたしは、人に尊び重んじられるが、(それは)自分の徳によるものではない。ただ、この(立派な)装束によるものである。」と。

解説

(2) 前の部分から、鼎殿で働く役人が、相手が関白だとは知らずに、鼎殿に入った関白をとがめていることを読み取る。

(3) 鼎殿の役人は、関白の着ていたものによって身分の高低を判断し、とがめたり恐れ入ったりした。このことから、関白は、自分が尊ばれるのは「装束」によるものと知ったのである。

(5) そのとき身につけていたものの違いによって、役人が関白に対する態度を変化させたことをおさえて考える。